資料1

第三次小樽市観光基本計画策定委員会（第 7 回）議事概要

1. 会議概要

・ 日時：2026 年 9 月 18 日（金）13:00～15:00

・ 場所：小樽市消防庁舎講堂

・ 目的：第三次小樽市観光基本計画および提案書案について

2. 議事

（1） 第 6 回委員会の振り返り【資料１】

- 事務局より前回議事の概要について説明。
- 質疑なし。

（2） 第三次小樽市観光基本計画の内容に関する意見交換（主な論点）

① 宿泊税について

- 安定財源目的税を戦略的に活用していくにあたり、透明性や市民への使われ方を具体的に表現してほしいという意見が出た。

② 「市民一人ひとりが恩恵を実感し」という表現について

- 「恩恵を実感し」という表現は強いため、割愛しても良いのではないかとの意見が出た。
- 一方で、国の観光立国推進基本計画（第 5 次）の政策の柱である「観光振興と住民生活との両立」の視点から記載されていると認識しており、表現方法は調整するにしても内容は残すべきとの意見があった。

③ 小樽観光の方向性について

- 食文化の追加について、後志エリアが入っているため農産物も列記に追加してほしいとの意見が出た。
- 寿司やスイーツなどの既存の食の魅力が定着している一方、海産物については将来的な原材料確保に課題が生じる可能性があるため、既存の魅力を維持するとともに新たな食の開発に取り組むこと、またそれを担う人材育成も進める必要がある点を追記してほしいとの意見が出た。
- 表現の丁寧さとバランスを加味し、「従来の顧客層を大切にしつつ」を「大切にするとともに」に変更すべきとの意見が出た。
- 事務局より、映像を通じた魅力発信や潮まつり等のイベントの位置づけについて、取組方針の前段の文章に盛り込み「真価」に紐づける形で反映予定であることを説明した。

④ 域内調達率の表現について

- 域内調達率について、説明を追加し強調しても良いのではないかとの意見が出た。
- 「域内」が何を指すのかを明確にしてほしいとの意見が出た。

- 事務局より、市の計画である以上市民の生活向上を主眼とし、市内を中心に据えつつも、後志エリアとの広域連携の観点も含んだ「域内」として理解してほしいとの説明を行った。

⑤ その他、内容や体裁等について

- イラストや地図について現実と異なる表現が見られるため修正してほしいとの意見があり、事務局より、提言書案が固まり次第デザインを含めて体裁を整える予定であることを説明。
- 文章が長方形の枠で囲われている箇所について、表記を統一すべきとの意見が出た。
- 本計画の実行力や使われる場面について質問があり、事務局より、今後 10 年間のビジョンとして市全体で共有する指針であること、宿泊税を活用し DMO(観光協会)に権限と責任を付与して事業を推進できる体制づくりを進めていること、具体的な施策は DMO の戦略・実行計画に落とし込む予定であることを説明。
- 算用数字の表記（一桁は全角、二桁以上は半角）について、小樽市の最上位計画である総合計画の表記に揃えている旨を説明。

⑥ 今後の進め方について

- 本日出された意見を取りまとめ、次回委員会までに提言書の最終版である第 4 版を作成する予定。
- 第 8 回委員会は、10 月 16 日（金）13 時より本庁本館第 2 委員会室にて実施予定であり、最終版の提言書を中心に議論する。

3. その他連絡事項

- 提言書手交式を 2026 年 10 月 28 日（水）14 時より本庁本館 2 階市長応接室で開催予定である、参加は必須ではないができるだけ参加して欲しい。
- 手交式後、素案をもとにパブリックコメントを 1 か月実施し、意見を反映して計画を完成させる予定。